

闇から光へ



きりのなかにいるような - 手さぐりのまいにちがつづくた



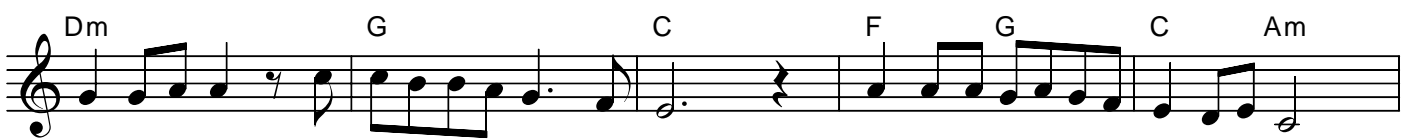
だ その日ぐらしのような ゆきづまる日々だ - った -



すなおになれないまま - だれかをにくむようになり もう決してこの



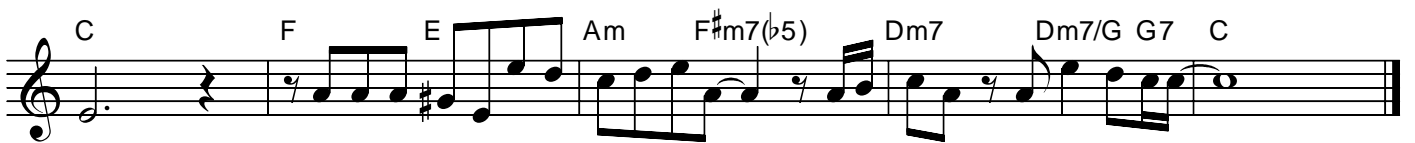
たにまから 出れはしないとおもった - あつくたちこめ



たきりに 主のいきがかかり いっしゅんのうちに消え去り



あたらしくされた おおわれていたこの目は 主によりひらか



れ やみのせかいにひかりが - たしかにともされた -